

社団法人 日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

発行人 赤川安正 編集 広報委員会

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630

Japan
Prosthodontic
Society



Letter for Members No.17 2005

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/> 2005.6.10 発行

社団法人 日本補綴歯科学会 誕生

《コンテンツ》

社団法人 日本補綴歯科学会 誕生	1-8
社団法人 日本補綴歯科学会 設立記念祝賀会	8
第113回学術大会レポート	9-14

平成16年度日本補綴歯科学会学会論文賞	14
第114回学術大会のご案内	15
支部学術大会のご案内	15
関連学会のご案内	15, 16
お知らせ	16

赤川理事長 法人化を語る—新しい時代への協力のお願—



社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 赤川安正

この度、社団法人 日本補綴歯科学会理事長の重責を担わせていただくことになりました。皆様のご支援をいただきながら、一所懸命に務めさせていただき所存であります。学会の法人化は小林義典元会長の時代から進められ、大山初代理事長の強い指導力で成就しました。私たちは今、新しい時代に入ったのです。社団法人として社会・公益活動の主体となり、良き部分を継承しながら絶えざる改革を進めていく必要があります。

私たちはまず、歯科補綴学と補綴臨床が国民の

健康と QOL に最も重要な責任と役割を担っていることを再確認したいと思います。本学会の使命である「健康科学に立脚して国民の顎口腔系の損なわれた形態や機能を回復し、それらを通じて健康を管理し、QOL の向上・維持に貢献すること」を全会員で共有し、胸中に補綴スピリッツを蘇らせましょう。

社会の要請には、優先課題の研究・臨床プロジェクトを推進します。歯科補綴学の深化に加え、脳科学、老年学、睡眠学、再生医学、ゲノムバイオインフォマティクス、臨床疫学などの領域を包含する新たな枠組みと、国民の利益にかなう「歯科補綴の価値」を創生しましょう。社会の国際化に対応して、海外との学会共催や交流、本年達成した補綴誌の MEDLINE 収載に続いて、英文誌の MEDLINE 収載や Impact Factor 取得も進めます。

一方、研究者と臨床家がともに集い活発に討論する学術大会を盛り上げましょう。来年から年1回となる本部大会には、皆様のさらに積極的な参加をお願いします。また支部大会支援も充実させます。発表での研鑽に加え、市民フォーラムや生

涯学習公開セミナーで地域の市民および非会員歯科医師への公益活動活性化にご協力ください。ホームページ、Letter for Members も引き続き充実させます。それゆえ、皆さんのご意見をお待ちしております。

補綴臨床の質を保証するために、ガイドラインの増強と併せてエビデンスを整備し、社会保険制度とも綿密に協調してまいります。優れた知識と技術によって補綴治療を実施し、長期にわたる管理を行いながら患者に高い満足を提供できること

こそ歯科補綴の専門性と考へ、認定医研修の充実を継承しながら専門医制度の早期確立に向けて全力を尽くします。現在、歯の欠損に代わる新病名や症型分類も策定されつつあり、1日も早い確立を目指します。

法人となった学会は社会に大きな義務と責任をもって活動いたします。会員の皆様におかれましては、この点を十分にご理解いただき、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2005年5月13日

平成 17, 18 年度 (社) 日本補綴歯科学会 役員一覧

理事長	赤川安正 (広大院)	理事・専門医制度検討委員長	野村修一 (新大院)
副理事長	平井敏博 (北医大)	理事・ガイドライン作成委員長	
	井上 宏 (大歯大)		寺田善博 (九大院)
理事・庶務担当	矢谷博文 (阪大院)	理事・社会保険委員長	福島俊士 (鶴見大)
理事・学術担当	佐々木啓一 (東北大院)	理事・特命事項	長岡英一 (鹿大院)
理事・編集担当	志賀 博 (日歯大)	監事	森田修己 (日歯大新潟)
理事・財務担当	森戸光彦 (鶴見大)	監事	佐藤國雄 (政策研究大学院大)
理事・国際渉外委員長	古谷野 潔 (九大院)	東北・北海道支部長	渡邊 誠 (東北大院)
理事・用語検討委員長	五十嵐順正 (松歯大)	関越支部長	小出 馨 (日歯大新潟)
理事・医療問題検討委員長	市川哲雄 (徳大院)	東関東支部長	大川周治 (明海大)
理事・会則等検討委員長	田中貴信 (愛院大)	東京支部長	石上友彦 (日 大)
理事・広報委員長	石橋寛二 (岩医大)	西関東支部長	藤田忠寛 (神歯大)
法人運営委員長	平井敏博 (北医大)	東海支部長	田中貴信 (愛院大)
理事・教育問題検討委員長	櫻井 薫 (東歯大)	関西支部長	江藤隆徳 (大歯大)
理事・生涯学習検討委員長	清野和夫 (奥羽大)	中国・四国支部長	中尾勝彦 (広島県開業)
理事・認定審議会委員長	古屋良一 (昭和大)	九州支部長	田中卓男 (鹿大院)
理事・社会連携委員長	冲本公繪 (九大院)		

平成 17, 18 年度委員会活動方針

学術委員会

委員長：佐々木啓一 (東北大院)
 副委員長：熱田 充 (長大院)
 委員：小野高裕 (阪大院)
 田上直美 (長 大)
 武田孝之 (関東支部)
 田中卓男 (鹿大院)
 築山能大 (九大院)
 馬場一美 (東医歯大院)
 皆木省吾 (岡大院)
 幹 事：川田哲男 (東北大院)

折しも法人化元年であり、平成 18 年度からは学術大会年 1 回開催が施行されるなど、本学会は今、リニューアルの起点に位置しています。法人格を有する団体として学術活動に関する社会への説明責任がこれまで以上に求められ、学術大会のあり方、支部学術大会との連携に関し新たな展開が望まれます。この機にあって本委員会では、1) 歯科補綴学の進歩発展、2) 歯科補綴学による社会貢献を活動理念に掲げ、① 学術活動の活性化(補綴歯科学の未来を拓く研究の推進ならびに実りある学術大会の開催)、② 会員のための学術活動の推進、③ 社会への情報発信を基本方針として活動を開始しました。具体的には、まず学術大

会企画の目的・対象の明確化を図ること、すなわち現存の歯科補綴に関し理論的背景の一層の確立を図る基盤戦略、科学の進歩発展に対応し歯科補綴の技術革新、展開を図る創生戦略からなる研究推進企画、会員の研究教育・臨床能力の向上に資する会員教育企画といった企画を適正規模で開催することを検討しています。また、今後の学術大会の向上・充実を図るうえで、これら企画に関する評価を実施します。これは第113回（大阪）にて試行しました。さらに学会の方向性を明示し、研究レベルの向上を図るため、課題口演、デンツプライ賞の審査方法について検討を行う予定です。このほかにも課題は山積しており、本委員会ではほかの委員会との連携を図り、かつ会員の声に耳を傾けながら活動をしていきます。今期のみでは達成し得ないことが多いことを承知しながらも、本学会の将来に繋がる活動を行い得ればと念じており、会員諸氏の協力を切に願う次第です。

編集委員会

委員長：志賀 博（日歯大）
副委員長：（和文）石上恵一（東歯大）
 （英文）松村英雄（日 大）
委員：（和文）魚島勝美（新 大）
 倉澤郁文（松歯大）
 新谷明幸（昭和大）
 高山慈子（鶴見大）
 山口泰彦（北 大）
 （英文）菊池雅彦（東北大）
 中村隆志（阪大院）
 二川浩樹（広 大）
 細川隆司（九歯大）
幹 事：荒川一郎（日歯大）

編集委員会は、委員長、和文誌担当副委員長、英文誌担当副委員長、和文誌担当委員5名、英文誌担当委員4名の合計12名で構成されております。和文誌と英文誌の区別がされていますが、平成17年発刊の英文誌（年1号）は前編集委員会が担当するため、現編集委員会では、当面両担当の区別をせずに活動していく予定であります。

主な活動は、和文誌と英文誌の査読、編集ですが、査読システムの評価・改善を進めます。また、和文誌は、研究・教育・臨床成果を公表する場がありますので、依頼論文、テーマ論文などの

内容の充実を計るとともに、各委員会の成果を集約し、会員の皆様に還元したいと思います。英文誌は、平成18年から年4号の発刊となりますが、これは、世界で認められる国際的な学術誌を目指すためであり、MEDLINEに登録できるよう内容を整備していく予定ですが、皆様からの積極的な投稿が重要ですので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

財務委員会

委員長：森戸光彦（鶴見大）
副委員長：川良美佐雄（日大松戸）
委員：越野 寿（北医大）
幹 事：松本亀治（鶴見大）

社団法人の認可にあたり、これまでご苦労されてきた皆さまに、こころから敬意を表したい。赤川執行部での財務委員会は、委員長：森戸、委員：川良先生と越野先生、幹事：松本亀治で担当させていただくことになっています。これまでの会計委員会は学会の将来的なものを会計の面から検討する委員会と位置づけられていたため、仕事内容としては、まさに財務委員会と呼ぶにふさわしいものでした。そこで今回、法人化を期に改名しました。活動目標は、法人としての財産管理はもちろん、これからの法人の下での活動の基本となるべきところをきちんと作り上げておくことが急務と考えています。特に経理は任意団体であった頃とは、かなり様相が異なるので、ある程度の専門知識が要求されます。その点、現メンバーは、経験豊かな先生ばかりなので、安心して運営できると思っています。学会活動が円滑に行えるよう、経費的なサポートも十分に行いたいと考えています。



Nobel Biocare™

The World Leader In Innovative Esthetic Dental Solutions
Professor Brånemark (ブローネマルク教授)による、世界で初めて骨と結合するタイプのインプラント手術から今年で40年が経ちました。
Nobel Biocareではこの輝かしい過去の実績をもとに、これからもインプラントの正しい普及と、患者様の生活の向上につとめてまいります。

ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社 〒108-0075 東京都港区南2-16-4品川三葉ビル6F
TEL. 03-6717-6191 FAX 03-6717-6178
<http://www.nobelbiocare.com>

国際渉外委員会

委員長：古谷野 潔（九大院）
副委員長：大畑 昇（北大院）
委員：大久保力廣（鶴見大）
前川賢治（岡 大）
前田照太（大歯大）
幹 事：鮎川保則（九大院）

今期の国際渉外委員会は、大要以下の5項目を活動方針としています。

- 1) 一層の国際化，海外の専門医学会との交流
- 2) アジア諸国の補綴関連学会とのさらなる連携
- 3) 欧米の補綴専門医の学会との連携
- 4) GNYAPとのJoint meeting開催
- 5) AAPとのJoint meeting開催

当面、今夏バンコクで開催される第4回AAP演題募集に際しては、当委員会で演題をとりまとめて提出しました。なお、第5回AAPは2007年に（社）日本補綴歯科学会と併催で日本開催の予定で、今後準備を進めていく所存です。

GNYAPとの第2回Joint meetingについては、2007年秋に日本で、通常の学術大会とは別に、独立した国際学会として開催する予定で進めていきます。

KAPについては、2006年に第3回Joint meetingをソウルで開催する予定で協議してまいります。また、KAPとの交流協定書については、日本語版、韓国語版しかありませんので、現在英語版を作成しています。

用語検討委員会

委員長：五十嵐順正（松歯大）
副委員長：三浦宏之（東医歯大院）
委員：江藤隆徳（大歯大）
倉知正和（朝日大）
高橋 裕（福歯大）
坂東永一（徳大院）
幹 事：山下秀一郎（松歯大）

前期の委員会において「日本補綴歯科学会用語集」第二版が製作されたことをうけ、今期の委員会ではこの用語集のブラッシュアップを図るとともに、ほかの学会、日本歯科医学会および、歯科医師国家試験、共用試験などへの用語採用に向け、種々な場面で働きかけを行います。

日本歯科医学会学術用語集の最終ブラッシュアップについて委員会として取り組み、現在必要とされる補綴関連用語を答申します。

歯科保険電子カルテ用語集についても最終的な検討を加えましたが、保険用語と補綴学用語との差異は大きく、その整合性については今後の課題とします。

医療問題検討委員会

委員長：市川哲雄（徳大院）
副委員長：窪木拓男（岡大院）
委員：貞森紳丞（広大院）
秀島雅之（東医歯大院）
和気裕之（西関東支部）
幹 事：永尾 寛（徳大院）

医療の質の向上，専門性の確立のための症型分類の完成を目指し、他委員会に協力を仰ぎながら以下の作業を行います。

- ・症型分類1（口腔内の条件，身体社会的条件，口腔QOL，精神医学的条件）のブラッシュアップとトライアル
- ・症型分類の（社）日本補綴歯科学会内（専門医制度，認定医，編集，学術委員会）および他分野における認知，普及活動
- ・機能検査の整理と症型分類のなかでの位置づけ

会則等検討委員会

委員長：田中貴信（愛大院）
副委員長：大川周治（明海大）
委員：石上友彦（日 大）
嶋倉道郎（奥羽大）
中野雅徳（徳大院）
幹 事：金澤 毅（愛大院）

NC VERACIA

ナノテクノロジーと機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

公認月給形番号 21100BZ200731

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯(前歯用) 1組…¥780 色調：A1, A2, A3, A3.5, B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

公認月給形番号 21200BZ200272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯(臼歯用) 1組…¥1,040 色調：A2, A3, A3.5, B2
形態：上下顎各2種

西暦は2007年11月版の標準規格と同等です。

株式会社 松風

本社〒090-0983 青森県東山区塩橋上高松町11-TEL:075-561-1124代

本年度の活動方針は未定です。それは、会則の類は実際の組織活動が明確になった時点で、その裏づけとして必要となるものであり、「まず規則あり」というものではないと考えるからです。それに今期は特に、学会の法人化に伴い、諸規則がすでに大幅に変更され、これまで白紙であった諸委員会の運営規約まで整備されております。これは細井委員長をはじめとする、前期委員会の大きなご尽力の賜物でもあります。当面は、これに則って新しい社団法人として動き始めるわけですが、活動開始とともにいくつかの問題点も表出する可能性があります。具体的な懸念事項は理事長、理事の選出法であります。これまでは評議員による会長選出の後、理事はその会長がすべて指名するものでしたが、新しい会則では、まず理事を選び、理事長はその理事の互選によって選ばれることになるからです。

いずれにしろ、今後現場の必要に応じて十分な審議を重ね、万事遺漏のない会則集を作ってゆく所存です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

広報委員会

委員長：石橋寛二（岩医大）
 副委員長：佐藤博信（福歯大）
 委員：北川 昇（昭和大）
 田中昌博（大歯大）
 谷口 尚（東医歯大院）
 細木真紀（徳大院）
 幹 事：金村清孝（岩医大）

皆様のご要望の多くは、「法人化に合わせた学

会の流れに関する情報を、リアルタイムに取得したい」ということと考えます。たとえば本学会が法人化によってどう変化するのか、本学会が社会に対してはたず役割は何かということでしょう。このような皆様の要望に応えるべく、学会員、そして社会に本学会のさまざまな情報を発信することを活動目標とします。そのために、情報を一方通行とせず、会員間の情報起点となるように、ホームページや Letter for Members の有効活用を推進してまいります。

また、学術大会・総会の年1回化に伴う支部との連携強化には、支部情報の共有が不可欠であり、広報活動が重要であると考えます。加えて、本学会の変化に加え、日本歯科医学会、日本歯系学会連絡協議会、日本学術会議の動きについても随時情報提供していく必要があります。皆様のご期待に添うよう尽力してまいりますので、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

法人運営委員会

委員長：平井敏博（北医大）
 副委員長：石橋寛二（岩医大）
 委員： 理事長 赤川安正（広大院）
 副理事長 井上 宏（大歯大）
 理事・庶務担当 矢谷博文（阪大院）
 理事・学術担当 佐々木啓一（東北大）
 理事・編集担当 志賀 博（日歯大）
 理事・財務担当 森戸光彦（鶴見大）
 古谷野潔（九大院）
 幹 事：越野 寿（北医大）

本委員会規程では、「委員長、理事長、副理事長、庶務・財務・学術・編集担当理事及び委員長の指名する若干名の理事をもって組織する」とされており、委員は役職指定が中心となった構成となっています。このことは、ほかの委員会に属さない、あるいは複数の委員会にまたがる業務、法人運営全般にかかわる業務を行うために設置された委員会であることに起因しています。同時に、従来の「会務連絡会」の役割をも兼ねる委員会です。


本委員会の具体的な業務内容は、① 複数の委員会にまたがる業務の調整およびまとめ、② 文部科学省などからの依頼事項への対応、③ 理事長から諮問された事項への対応、④ そのほか法人運営に関して必要な事項を検討することなどで

速さが自慢!!

歯科接着用レジンセメント
スーパーボンド クイック

スーパーボンドの物性(接着力・靱性)はそのままに、急速硬化で、待ち時間が短縮されました。

クイックモノマー液 10mL
 標準価格 ¥6,900



歯科接着用レジンセメント
スーパーボンド クイック
 標準価格 ¥26,000
 医療器具承認番号: 2-30032201035

■ 株式会社 日本DQD(5年6月11日設立) のです。当製品はごまかしていません。

■ 東京 池袋 池袋西口ビル
サンマテリアル株式会社
 TEL: 03-3491-1111 FAX: 03-3491-1112
 〒112-8555 東京都池袋区西口1-1-1

す。委員の多くが役職指定になっていることから、ご理解いただけますように、学会運営全般にかかわる事項に対して迅速かつ的確に判断・対応することを旨として、委員会を運営します。

教育問題検討委員会

委員長：櫻井 薫（東歯大）
副委員長：豊田 實（神歯大）
委員：鎌田政善（奥羽大）
河野文昭（徳 大）
小正 裕（大歯大）
幹 事：上田貴之（東歯大）

本学会では、平成5年に「歯科補綴学卒直後教育基準」が作成され、さらに平成13年に「歯科補綴学教育基準」が改訂されました。また昨年度には、実技教育検討委員会から歯科医師国家試験実技問題素案の実施の可能性、各大学の設備整備状況の把握、試験時間の妥当性および難易度の検討、採点の配点などを検討した報告書「補綴実技教育の評価を考える（本学会誌49巻1号）」が作成されました。さらに研修教育検討委員会から、歯質の欠損、歯列の欠損（ブリッジ）、歯列の欠損（部分床義歯）、歯列の欠損（全部床義歯）に分けて「研修医担当症例の適応表」が作成されました。

われわれは上記をふまえて、臨床研修を行うにあたり、各歯科大学において卒前にすべての学生が体験し、最低限習得しておくべき実技内容を決定したい。そして、もし歯科医師国家試験に実技試験が導入されたとしてもその内容を課題とするように、厚生労働省に提言したい。

生涯学習検討委員会

委員長：清野和夫（奥羽大）
副委員長：宮地建夫（東京支部）
委員：市来利香（九 大）
小出 馨（日歯新潟）
藤澤政紀（岩医大）
幹 事：山森徹雄（奥羽大）

生涯学習検討委員会の目的は、会員の補綴診療に関する質的向上をはかるための教育活動にあります。そのため、生涯学習公開セミナーを企画・実施するのが主な活動内容となります。社団法人

となった日本補綴歯科学会が社会に貢献する活動の一環として、生涯学習公開セミナーは重要な役割をはたすことと思います。会員のみならず、地域の歯科医療に従事している非会員とともに、学会の知的財産を共有することにより、日本の歯科医療がさらに向上されることを願っています。今年度もすでに、中国・四国支部と九州支部の合同学術大会が開催されることが決定しています。これから各支部で公開セミナーの開催が企画されることと思いますので、多くの先生方が参加してくださいませようお願いします。

認定審議会

委員長：古屋良一（昭和大）
副委員長：祇園白信仁（日 大）
委員：
東北・北海道支部 佐々木啓一（東北大院）
関越支部 小林 博（新大院）
東関東支部 佐藤 亨（東歯大）
東京支部 松村英雄（日 大）
西関東支部 阿部 實（鶴見大）
東海支部 服部正巳（愛院大）
関西支部 小正 裕（大歯大）
中国・四国支部 久保吉廣（徳 大）
九州支部 鱒見進一（九歯大）
理事長 赤川安正（広大院）
副理事長 平井敏博（北医大）
副理事長 井上 宏（大歯大）
理事・庶務担当 矢谷博文（阪大院）
理事・学術担当 佐々木啓一（東北大院）
理事・財務担当 森戸光彦（鶴見大）
幹 事：船登雅彦（昭和大）

美しさと強さの融合 'GC'
MFRナノハイブリッドテクノロジーの導入で
グラディアがレベルアップ 健保適用外
GRADIA FORTE
Total Esthetic Harmony NEW!
超高強度MFRナノハイブリッドタイプ
ジーシー グラディア フォルテ
医療用具承認番号 21700BZZ00065000号
発売元 株式会社 ジーシー / 製造元 株式会社 ジーシーデンタルプロダクツ

平成 17, 18 年度の本委員会の活動方針は以下の通りです。

1. 認定事業：認定医申請者の奨励・増強を図る。
2. 認定医研修会の企画：学会年 1 回開催化への対応を学術、生涯学習と共同で検討します。
3. 認定審査基準の再検討：専門医制への移行（専門医制度と共同）を指向して、プレゼンテーションの認定評価基準を見直すため審査項目を改定する。本件に関しては、前委員会からの引継ぎ作業で、早期の改定を目指して検討中です。
4. プレゼンテーションの充実：十分な資料の供覧のないプレゼンテーションをなくすため、前委員長が作製した申請時のチェックリストを実行に移す。

社会連携委員会

委員長：冲本公繪（九大院）
副委員長：佐藤 亨（東歯大）
委員：伊藤 裕（愛院大）
越智守生（北医大）
塩山 司（岩医大）
宮内修平（関西支部）
幹事：諸井亮司（九大院）

新しい時代の（社）日本補綴歯科学会は、顎口腔機能の健康の回復と管理により、国民の健康管理・維持をはかり、その QOL 向上・維持を目指すことを重要使命としています。より社会と向き合い、社会・公益活動を推進する必要があります。そのために（社）日本補綴歯科学会活動の成果をよりわかりやすく、速やかに社会に還元できるような社会連携活動を行うことを目的とします。

本委員会は、学会活動に関する正確な情報を社会・国民に提供し啓発するために、学術委員会、広報委員会、生涯学習検討委員会などほかの委員会および支部と共同して、市民フォーラム・公開講座の企画や実施し、さらに歯科医師会や地域との連携による地域活動の推進をはかりたいと思います。

専門医制度検討委員会

委員長：野村修一（新大院）
副委員長：佐藤裕二（昭和大）

委員：會田雅啓（日大松戸）
藤田忠寛（神歯大）
山本克之（西関東支部）
幹事：田口裕哉（新大院）

社団法人となった本学会は、今まで以上に質の高い補綴治療を国民に提供する専門性が求められています。本学会会員が補綴治療の専門性を国民に情報開示（広告）するには、まず本学会が厚生労働省から専門医資格認定団体として認可される必要があります。そのためには専門医制度を確立して、専門性に関する資格の取得要件を明らかにしておかなければなりません。

認定審議会、医療問題検討委員会とも連携して早期に専門医制度規則を制定したいと考えています。また、専門医制度の基盤となる補綴治療の専門性についても十分に検討しておく必要があります。

諸般の事情から、専門医制度の早期確立は本学会にとって重要な課題ですので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

ガイドライン作成委員会

委員長：寺田善博（九大院）
副委員長：新谷明喜（日歯大）
委員：池邊一典（阪大院）
志賀 博（日歯大）
玉澤佳純（東北大）
幹事：永留初實（九大院）

活動方針としては、ガイドラインの作成と社会への公表、補綴治療の質の保証を目的として、新

Happy Smiles & Heartful Communication

デンタルエステをはじめませんか MORITA

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研削性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイブリッド セラミックス
エステニア C&B

■標準価格 スタンダードセット 128,000円
■医療機器承認番号 21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社
販売元 株式会社モリタ
●販売委員の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。
※標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-glaza.com

しいガイドラインの作成および既存のガイドラインの見直し、修正、追加などを行う。新しいガイドラインとしては、① 咀嚼・発語機能検査、② ブリッジ補綴、③ 有床義歯補綴、④ 有床義歯のリライン、リベース、⑤ インプラント補綴、⑥ ゴシックアーチ・チェックバイト、などが挙げられましたが、臨床現場の要望などを考慮して、まず最初の1年間で緊急の課題である②と④の2つについてガイドラインを作成し、次年度にはさらにほかのガイドラインを作成する予定です。

社会保険委員会

委員長：福島俊士（鶴見大）
副委員長：鈴木 尚（東京支部）
委員：鈴木哲也（岩医大）
 鱒見進一（九歯大）
幹事：中村善治（鶴見大）

社会保険委員会は、医療問題検討委員会から独立して今回初めて設置された委員会です。日本の歯科医療の大部分が社会保険制度のもとで実施されており、補綴臨床についても例外ではありません。折しも小泉内閣の規制緩和策の一環として混合診療の導入が議論されており、歯科医療の根本を考え直す絶好の機会ともいえます。委員会としては、従来どおり、① 日本歯科医師会疑義解釈委員会からの諮問に科学的な根拠を添えて答申する、② 次々期診療報酬改定（平成20年度）に向

かって（状況によって代議員の先生方にアンケートを依頼し）問題点を抽出し要望項目を絞りこむとともに、新規に、③ 日本歯科医学会のなかに新たに設けられた医療問題を扱うワーキンググループに参加し、歯科全体としての対応に協力するなどの活動を予定しています。どうぞご意見をお寄せください。

特命委員会

委員長：長岡英一（鹿大院）
幹事：濱野 徹（鹿大院）

特命（AD HOC）委員会は、緊急かつ既存の委員会で所掌できない問題に迅速に対応することになっています。委員会規程作成にあたって、理事長と事務局長に相談しましたところ、本委員会は対応すべき事項が発生した時点で、その都度、委員会を構成して規程を作成することになりました。したがって、現段階では、委員会構成員は委員長と幹事のみであり、ほかの各種委員会と同様の活動方針を作成する状況にありませんが、本委員会で扱うべき事項としてどのようなものがあるかを検討することが1つの活動方針といえるかも知れません。ほかの各種委員会の活動をみながら検討してみたいと考えていますが、会員の皆様が気づかれた事項があればご教示願えると幸いです。本委員会の特殊性をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

社団法人 日本補綴歯科学会 設立記念祝賀会

平成17年4月23日（土）午後5時より第一ホテル東京において、文部科学省、厚生労働省および歯科学会の関係者をお招きし、「社団法人日本補綴歯科学会設立記念祝賀会」が開催された。本

学会からは歴代会長や役員が出席し、ご招待者をおあわせて108名が、社団法人の設立と社団法人日本補綴歯科学会のあらたなる出発を祝福した。



挨拶される大山前理事長



祝賀会に集まった先生方

第113回学術大会レポート

黒川 清 日本学術会議会長メッセージ —(社)日本補綴歯科学会 第113回学術大会に寄せて—

(社)日本補綴歯科学会第113回学術大会の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

日本補綴歯科学会は、歯科補綴学はもとより、歯科医療全般についての研究を行い、健康科学と国民の福祉の向上に寄与されてまいりました。また、この度は、主務官庁の許可を受け、社団法人として幅広い公益活動を展開されるとお聞きしました。社団法人としてのスタートを心からお祝い申し上げますとともに、学会としての社会貢献事業の拡充にご期待申し上げます。

今回の学術大会のメインテーマは、「咬合・咀嚼が創る健康長寿」とお聞きしております。このテーマは、日本学術会議とも協働するものであり、日本学術会議におきましては、昨年12月に報告書として公表しております。

このように、学会とわが国科学者の代表機関である日本学術会議とが協働し、テーマを1つにして、また国民の福祉向上という共通の理念を掲げ、それぞれの社会的責務をはたすことは、わが国科学者コミュニティの発展に大きく寄与するものであることはもちろん、Science for Societyの具現化にとっても重要であると考えております。

日本学術会議は、昨年法の改正を経て、本年10月には新しい体制を発足させ、政府・社会に対する科学的根拠をもった提言活動を一層充実させていくこととしております。優れた提言を行っていくためには、各学会のもつ知見を生かすとともに、優れた科学者の参加を得て、日本学術会議の審議を充実させることが必要です。このため、日本補綴歯科学会におかれては、見識の高い政策提言などのできる研究者の育成と科学者コミュニティの形成などにご尽力賜りたいと存じます。

また、一昨年9月には、ほかの領域に先駆けて、歯学系の70学会が集まり、日本歯学系学会連絡協議会が発足しております。日本補綴歯科学会も中心的メンバーとして活動いただいていると



代読する小林義典先生

ころであり、ここを通じて、日本学術会議に対し、広く歯学発の優れた提言案をいただけるよう期待いたしております。

最後になりましたが、野首大会長、大山前理事長、赤川理事長はじめ関係者の方々のご努力に敬意を表しますとともに、今回の学術大会のご盛会を祈念いたしまして、私のメッセージとさせていただきます。

平成17年5月14日

日本学術会議会長 黒川 清

超速
こんなフロアブルレジン見たこと無い!!
株式会社 トクヤマデンタル
インクメーカー・ソリューションズ
0120-54-1182
tokuyama-dental.com
受付時間 9:00~12:00 / 13:00~17:30 (土・日・祝日を除く)

第 113 回学術大会がグランキューブ大阪を会場に、野首大会長のもと開催されました。

事前登録、演題申し込みは電子化され、受付にて抄録集を受け取るようになりました。

特別講演

おいしさと健康

—咀嚼と味覚の重要性—

講師：山本 隆教授（大阪大学大学院人間科学研究科）

座長：野首孝祠教授（阪大院）



山本 隆先生

（社）日本補綴歯科学会第 113 回学術大会の特別講演演者として大阪大学大学院人間科学研究科の山本 隆教授が「おいしさと健康—咀嚼と味覚の重要性—」について講演をされた。今回の学術大会のメインテーマである「咬合・咀嚼が創る健康長寿」に沿った魅力ある内容で、おいしく味わうということが生体反応として 1) 脳内物質の分泌促進、2) 免疫能の向上、ストレスの低下、さらに 5) QOL の向上につながるという楽しい内容の講演でした。

ややもするとわれわれ補綴家は噛める補綴物を作ることに集中しすぎて、味覚や食感（テクスチャー）など、まだまだよく考えていないといけない要素に目配りが十分できていないと実感させられた。また、先生はこれらのものと関連のある物質を科学的にとらえることの重要性も示され、われわれのよく味わえる義歯への挑戦を啓発されたものと考えました。



座長の野首大会長

（広報 佐藤博信）

理事長講演

歯科補綴の未来価値

講師：赤川安正理事長（広大院）

座長：平井敏博教授（北医大）



赤川理事長

誠に力強いご講演でした。すなわち、今後さらに重要性を増す歯科医療のなかで、咀嚼をはじめとする顎口腔機能の維持向上に中心的な役割を果たす本学会が国民の健康と QOL に確かに貢献してきたことを、科学的根拠とともに示されました。加えて、さらなる本学会の発展と国民の利益のために、脳科学、睡眠学、再生医学、臨床疫学などを包含する新たな歯科補綴学の構築の必要性を訴えられました。それは国民の幸福にさらに貢献する学問となると、私には聞こえました。自然科学と人文科学を統合した、まさに健康科学でしょうか？

社団法人となった今、本学会は社会に対して必要な情報を確実かつ迅速に伝達し、オピニオンリーダーとしての提言を行う義務と責任があります。そのリーダーのこの度の講演を、歯科医療関係者以外の方々を含めて、もっと多くの人に聴いて欲しいと思いました。必ずや聴衆は、歯科補綴学とその臨床の輝かしい未来とその価値を予測するでしょう。実に素晴らしいご講演でした。



座長の平井先生

（座長 平井敏博）

シンポジウム 1

歯科補綴における再生医療の方向性

座長：古谷野 潔教授（九大院）

講師：春日井昇平教授（東医歯大院）

「骨再生医療の開発と補綴臨床への応用」

高橋 哲教授（九歯大）

「骨再生の臨床—口腔外科的立場から—」

武田孝之先生（東京支部）

「補綴臨床における再生医療の必要性和展望」



座長・古谷野 潔教授（九大院）から、本シンポジウムでは補綴領域における再生医療研究の将来に向けた方向性について考えたいとの発言に始まり、先端的な骨再生に関する研究知見と補綴臨床への応用の展望について春日井昇平教授（東医歯大院）、歯槽骨の移植・再建そしてディストラクションの臨床例を通して再生医療の歯科補綴への貢献について高橋 哲教授（九歯大）、そしてインプラント治療・補綴臨床における再生医療の現状と期待について武田孝之先生（東京支部）の3名のシンポジストから講演をいただいた。

春日井教授から、薬物（スタチン）を用いた骨造成と、遺伝子（Plasmid vector）導入法を用いた骨再生のいずれもが、効果的で、安全で、低価格であることを話された。そして、再生治療法が社会に受け入れられるためには、治療効果、安全性、簡便性、低コストの4つの条件を満たす必要を説かれた。

高橋教授から、これまでの歯槽骨の再建では、ドナーサイトへの侵襲が不可避で、治療が長期間にわたり、治療後に骨吸収の発現などの問題を述べられた。そこで、新しい骨造成法として、骨にメカニカルストレスを加えて、大きな骨増生を得て、同時に軟組織の延長も得られるディストラクション（歯槽骨延長法）が示された。

武田先生は開業医の立場から、補綴介入による崩壊リスクの軽減を期待するインプラントが治療

中、治療後に安全であってほしい。したがって、骨造成とともに、骨の保存・維持のために最適なメカニカルストレス（咬合の付与）を学会が示してほしいと要望された。

全体討論では骨増生において Tissue management の重要性や新しい骨補填材の話題に広がり、意義あるシンポジウムであった。

（広報 田中昌博）

シンポジウム 2

咬合・咀嚼が創る健康寿命

—ライフステージを俯瞰する咬合—

（日本学術会議咬合学研究連絡委員会併催）

座長：小林義典教授（日歯大）

講師：山田好秋教授（新大院）

「咬合の生理学的解釈」

大東道治教授（大歯大）

「小児の咬合咀嚼が創る健康」

相馬邦道教授（東医歯大院）

「不正咬合の病態」

赤川安正教授（広大院）

「高齢者の健康と咬合」



昨年11月に開催された第1回公開シンポジウムに引き続いて、（社）日本補綴歯科学会と日本学術会議咬合学研究連絡会との併催による第2回シンポジウムが開催された。開催に先立ち、日本学術会議・会長であられる黒川 清先生からのお手紙が代読された。

シンポジウムは基礎医学と咬合学研究連絡委員会を代表して山田好秋教授（新大院）が咬合の生理学的解釈に基礎研究はどのような役割をもつのか、次に、臨床咬合学を代表して、日本小児歯科学会会長の大東道治教授（大歯大）が母体の因子が胎児に及ぼす影響について、さらに、日本矯正歯科学会会長の大東道治教授（東医歯大院）が不正咬合に関係する歯根膜や咀嚼筋などの臨床生理学的な検証を話され、最後に本学会理事長の赤川

安正教授（広大院）が高齢者の咬合の維持・改善に関する文献レビューと改善策を提示された。その後、ディスカッションに移り活発な意見の交換後、座長の小林義典教授（日歯大）が総括され盛會裡に閉会となった。（広報 北川 昇）

シンポジウム3

チェアサイドでの咀嚼機能検査法

座長：佐々木啓一教授（東北大院）

講師：築山能大助教授（九大院）

「寒天篩分法を用いた咀嚼能率測定法」

馬場一美講師（東医歯大院）

「混合能力を指標とした咀嚼能率評価」

野首孝祠教授（阪大院）

「検査用グミゼリーを用いた咀嚼能率検査法」

河野正司教授（新大院）

「咀嚼回数を指標とした補綴治療の評価」



「検査用グミゼリーを用いた咀嚼能率測定法」（野首）、「咀嚼回数を指標とした補綴治療の評価」（河野）のタイトルのもと、各方法の具体的手順、信頼性、相互の対応などについての報告を得ました。ディスカッションでは、さらに各方法の特徴、臨床導入のうえで課題となる正常値設定の問題などについて詳細に検討し、いずれの方法も咀嚼機能を客観的に評価しうる方法であり、また検査データの信頼性も高いことが示されました。これらの結論を受け本シンポジウムでは、今回呈示された方法に十分な研究データを有する他施設の方法を含めた咀嚼機能検査の臨床導入を学会として推進することを確認することができました。

座長としては、各シンポジストの先生に感謝すると同時に、本学会が歯科界さらに社会へ向けて具体的な活動を早期に開始することを念じています。



座長の佐々木先生

（座長 佐々木啓一）

歯科臨床では患者の咀嚼能力を的確に把握することが必要であり、社会への説明責任をはたすうえでも咀嚼機能に関する検査を広く臨床に導入することが求められています。チェアサイドで簡便に行い得る咀嚼機能検査法の開発と早期導入を実現することは、咀嚼機能の回復と保全のための歯科補綴学を担う本学会の責務であり、そのため本学会では、これまで学術大会課題口演として研究成果を積極的に求め、多くの知見を蓄積するにいたりました。

そこで今大会では、これら検査の本格的な臨床導入を図ることを目的に、シンポジウム・「チェアサイドでの咀嚼機能検査法」を開催しました。演者には咀嚼機能検査法を開発・臨床応用されている各施設から代表的な築山能大助教授（九大院）、馬場一美講師（東医歯大院）、野首孝祠教授（阪大院）、河野正司教授（新大院）を迎え、「寒天篩分法を用いた咀嚼能率測定法」（築山）、「混合能力を指標とした咀嚼能力評価」（馬場）、「検

臨床教育研修

補綴治療のスキルアップ

座長：渡邊文彦教授（日歯大新潟）

講師：鎌田政善教授（奥羽大）

「支台歯形成のための基本姿勢」

大川周治教授（明海大）

「部分床義歯における咬合採得」

黒岩昭弘教授（松歯大）

「全部床義歯の咬合と安定」

座長の渡邊文彦先生の“時間も遅くなってしまったので一度体を伸ばしてリフレッシュ!!”という言葉に、会場内、皆腕を伸ばし、臨床教育研修はリラックスマードで始った。

奥羽大学の鎌田政善教授の講演は、“支台歯形成のための基本姿勢”という演題で、支台歯形成の良否によって支台歯の寿命が決まるといっても過言ではないという言葉には、説得力があり、身

体的にも精神的にもストレスをかけないポジションでの形成という観点から、基本姿勢・グリップ・レストについて具体的な説明があった。また、国内外の大学教育におけるシミュレーションについても説明があり、学生教育方法の1つとしてシミュレーション導入が進むことが示唆された。

続いて、明海大学の太田周治教授から“部分床義歯における咬合採得”のご講演があった。咬合採得時の問題点を①被圧変位性の相違、②歯根膜感覚による下顎の偏位、③咬合支持の有無、など具体的な例をあげたうえで、手順に沿った対処法の説明があり、残存歯どうしが咬合支持を有しない部分床義歯症例では、ゴシックアーチトレーサーを応用することが、適切な咬合採得を適切に行うために不可欠であることをご教示いただいた。

続いて、松本歯科大学の黒岩昭弘教授から“全部床義歯の咬合と安定”という演題名でご講演があり、再来を繰り返す総義歯患者における咬合の問題点について具体的な説明があった。新義歯作製時の咬合採得法・試適法についても臨床術式の説明があり、上顎は全歯列を排列、下顎は前歯のみを排列し、下顎臼歯部はワックスで試適する方法なども説明された。

若手の先生方対象の本研修は、日常臨床において翌日から即応用できる講演内容であった。

(広報 細木真紀)

認定医研修 補綴臨床の予後に直結する落とし穴—補綴治療と歯周治療—

座長：細川隆司教授（九歯大）

講師：土屋賢司先生（東京都開業）

「補綴装置と歯周疾患」

宮本泰和先生（京都府開業）

「補綴物マージン露出に関する歯周病学的考察」



審美的な歯科治療を望む患者に対し、日本補綴歯科学会認定医としてどのような臨床判断能力が求められているのだろうか？ これまで、歯科補綴学では、おもに歯質の切削方法や技能、咬合力に対する物理的配慮や補綴装置の材料について深く追及してきた。もちろん、従来から歯肉に対するクラウンマージンの位置設定などの議論はあったが、軟組織の生物学的反応を予測し適切な臨床的対応を図るような、いわゆるバイオロジーに立脚した臨床診断・判断が十分ではなかったと思われる。

今回の認定医研修では、臨床医として著名なお2人の先生方をお迎えし、補綴臨床医として身に付けていなければならない臨床診断・判断の具体的方策をご教示いただいた。土屋賢司先生には、生物学的幅径に関する考え方や歯周組織のタイプ（バイオタイプ）の診断に基づいた臨床的対応などについてお教えいただき、また、宮本泰和先生には、補綴治療にとって大きな問題点である歯肉退縮の原因を考察し、長期的に安定した歯周組織を作るための方法について、豊富な臨床例とともに臨床判断のポイントを具体的かつ詳細に述べていただいた。

審美的な補綴装置を装着後、いかに長期的に良好な予後を維持するかという問題は、きわめて重要な臨床的課題である。このような補綴治療の予後に直結する落とし穴（ピットフォール）を議論することは、認定医のみならず多くの会員にとっても非常に有益なことであったと思う。国際会議場の第2会場がほぼ満員になり、立ち見が出たほどの盛況であったことから、本学会においてもこういった臨床スキル向上のためのクリニカルプログラムのニーズと重要性が再認識されたのではないかと考えられた。



(座長 細川隆司)

受賞者紹介

第 113 回学術大会の課題口演コンペティション優秀賞, デンツプライ賞受賞者をご紹介します。

課題口演コンペティション優秀賞

(日-会場-演題)

- 1-1-5 水嚥下時における口蓋部への舌圧と嚥下関連筋群活動との時系列上の関係について
○岩田久之 (阪大院)
- 1-1-10 顎口腔系機能運動が脳循環動態に及ぼす影響
○長谷川陽子 (阪大院)
- 1-1-12 ラットの飼育飼料形態が自発運動量に及ぼす影響
—動物行動学的, 生化学的検討—
○横山雄一 (北医大)
- 1-2-1 II 型腫瘍壊死因子可溶性受容体の変形性顎関節症における役割
○上原淳二 (岡大院)
- 1-2-10 長期経過中の舌切除 2 症例における義歯口蓋部形態と調音回復の様相
○佐々木具文 (東北大院)

- 1-2-12 インプラント周囲に充填した自己硬化型 α -TCP 系骨補填材に対する組織反応
○中館正芳 (新大院)

デンツプライ賞

- 1-3-9 納豆菌より産生されるポリ- γ -グルタミン酸の義歯安定剤への応用
○有田正博 (九歯大)
- 1-3-15 片側性遊離端欠損における部分床義歯の装着が咬みしめ時の下顎変位に及ぼす影響
○山崎真由美 (東医歯大院)
- 1-3-16 部分床義歯装着患者の機能回復が QOL に及ぼす影響
○東條敏明 (鶴見大)
- 2-3-7 高脂血症治療薬 simvastatin の局所投与が骨創傷部位へおよびす影響
○安川英輔 (九大院)
- 2-3-36 Stress around a Dental Implant in a Model that Simulates Bone to the Trabecular Level
○Stegaroiu R (Niigata University)

* 発表者のみ記載

平成 16 年度日本補綴歯科学会学会論文賞

学会論文賞

森田修己 (日歯大新潟) 「閉塞型睡眠時無呼吸症患者における睡眠時咬筋筋活動」

補綴誌 48 巻 1 号 p 59-66

野首孝祠 (阪大院) 「実験用口蓋床の厚さと材質が味覚閾値に及ぼす影響」

補綴誌 48 巻 1 号 p 67-73

中堅優秀論文賞

吉田圭一 (長大院) 「Zirconate coupling agent for bonding resin luting cement to pure zirconium」 American Journal of Dentistry 17(4) p 249-252

川口 稔 (福歯大) 「各種浸漬媒体中におけるティッシュコンディショナーからのフタル酸エステルの溶出挙動」 補綴誌 49 巻 3 号 p 404-412

特定推進研究優秀論文賞

七田俊晴 (昭和大) 「顔面皮膚上点の運動観測による下顎運動の推定」

補綴誌 48 巻 5 号 p 741-750

奨励論文賞

連 直子 (愛院大) 「口腔内におけるエナメル質切削表面の経時的変化に関する研究」

補綴誌 48 巻 1 号 p 84-93

鮎川保則 (九大院) 「Simvastatin promotes osteogenesis around titanium implants. A histological and histometrical study in rats」

Clinical Oral Implants Research 15(3) p 346-350

堀 紀雄 (神歯大) 「Biting suppresses stress-induced expression of corticotropin releasing factor (CRF) in the rat hypothalamus」

Journal of Dental Research 83(2) p 124-128

第 114 回学術大会のご案内

日 時：平成 17 年 10 月 1 日（土），2 日（日）
会 場：朱鷺メッセ
（新潟コンベンションセンター）
〒 950-0078 新潟市万代島 6-1
TEL：025-246-8400
大会長：河野正司（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食機能学再建学）
<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/prosth1/jps/>

支部学術大会のご案内

北海道・東北支部

日 時：平成 17 年 9 月 9 日（金），10 日（土）
会 場：北海道大学学術交流会館
大会長：大畑 昇（北海道大学大学院）
テーマ：「地域医療における連携」

連絡先：〒 060-8586 札幌市北区北 13 条西 7 丁目
北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座（担当：上田康夫）
TEL：011-706-4275，FAX：011-706-4276
E-mail：ueda@den.hokudai.ac.jp

東海支部

開催日：平成 17 年 11 月 26 日（土），27 日（日）
会 場：愛知学院大学歯学部楠元講堂
大会長：田中貴信（愛知学院大）

連絡先：〒 464-8651 名古屋市千種区末盛通 2-11
愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座
（担当：星合和基）
TEL：052-751-7181，FAX：052-759-2152
E-mail：kazumoto@dpc.aichi-gakuin.ac.jp

中国・四国支部・九州支部（合同学術大会）

日 時：平成 17 年 9 月 3 日（土），4 日（日）
会 場：山口県歯科医師会館
大会長：右田信行（山口県歯科医師会長）
テーマ：咬合・咀嚼が創る健康長寿
*生涯学習公開セミナー，市民フォーラムの開催を予定（9 月 4 日）

連絡先：九州支部
〒 890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野（担当：梶原浩忠）
TEL：099-275-6212，FAX：099-275-6218
E-mail：kajihiro@dentb.hal.kagoshima-u.ac.jp
中国・四国支部
〒 734-8553 広島市南区霞 1-2-3
広島大学大学院医歯薬学総合研究科先端歯科補綴学研究室（担当：津賀一弘）
TEL：082-257-5676，FAX：082-257-5679
E-mail：tsuga@hiroshima-u.ac.jp

関連学会のご案内

日中歯科医学大会 2005

日 時：平成 17 年 11 月 11 日（金）～13 日（日）
開催場所：上海光大コンベンションセンター国際ホテル（上海光大会展中心国際大酒店，中国・上海）
主催団体：日本側；日本歯科医師会，日本歯科医学会，中国側；中華口腔医学会
大会長：日本側
井堂孝純（日本歯科医師会会長）
斎藤 毅（日本歯科医学会会長）
中国側
張 震 康（中華口腔医学会会長）
邱 蔚 六（中華口腔医学会副会長）

住 所：Zip 200235 中国上海徐家・漕宝路 66 号（66 Cao Road, Xuhui District, Shanghai, China 200235）
TEL：86-21-64842500
FAX：86-21-64545595
E-mail：Hotel@secec.com

第46回日本歯科理工学会

日時：平成17年9月15日（木）、16日（金）
会場：長崎ブリックホール
大会長：久恒邦博（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科発生分化機能再建学講座）
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsdmd/2005/riko46.html>

連絡先：〒852-8588 長崎市坂本1-7-1
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科発生分化機能再建学講座
（担当：白石孝信）
TEL：095-849-7659
FAX：095-849-7658

第16回日本歯科審美学会学術大会

日時：平成17年10月8日（土）、9日（日）
場所：大阪国際会議場
大会長：諏訪富彦（諏訪歯科診療所）

連絡先：〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
（財）口腔保健協会コンベンション事業部内
第16回日本歯科審美学会学術大会準備委員会事務局
TEL：03-3947-8761
FAX：03-3947-8873

お知らせ

年会費改定について

平成16年10月15日開催の平成16年度臨時総会において、年会費が下記の通り改定されましたのでお知らせ致します。

正会員：13,000円、準会員：6,500円
改訂時期：平成17年度（平成17年4月1日）より
なお、すでに平成17年度会費を前納されている会員には、新会費との差額の請求書が届きますが、何卒ご了承願います。

機関誌発行月と回数変更について

日本補綴歯科学会雑誌ならびに Prosthodontic

Research & Practice は、おのこの平成18年から年4回発行となります。

詳しくは補綴誌49巻2号をご参照ください。

補綴誌がMEDLINEに登録されました

かねてより補綴誌のMEDLINE登録についてお伝えしてきましたが、平成16年11月12日付で補綴誌がMEDLINEに登録されたのに伴い、編集委員会では収載準備をして参りました。補綴誌48巻5号から収載され、インターネット上でPubMed文献検索システムで閲覧可能となりましたのでどうぞご覧ください。

会員登録状況（平成17年2月17日現在）

会員数：6421人
（名誉会員：53人、正会員：6305人、準会員：20人、賛助会員：43人）

ニュース速報

- ・平成17年度第1回理事会、ならびに定例総会（大阪）において専門医制度を設けることに決定し、その名称、制度を検討することになりました。
- ・GNYAPの共催は2007（秋）に決定です。

名誉会員

芝 燿彦先生（昭和大学歯学部有床義歯学教室）
真柳昭紘先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学講座）
山田早苗先生（朝日大学歯学部歯科補綴学第2講座）
渡辺嘉一先生（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座）

*所属は退職時

新広報委員会として最初の Letter for Members をお届けします。今回は、社団法人としてスタートした本学会の新執行部紹介を中心に構成しました。今後はよりいっそうの内容充実を目指してまいりますので、よろしく願いいたします。

学会ならびに広報委員会へ、皆様のご意見ご要望をお寄せ下さい。

（石橋寛二）